

化学療法計画書

ID					
氏名					
生年月日					
実施部署			発行日		
身長 (cm)	160	体重 (kg)	50	体表面積 (m ²)	1.50

指示医師:			
指導医師:			
投与開始予定日:	年	月	日
投与終了日:	年	月	日

病名	胃癌
治療法	パクリタキセル単独療法

	1
抗癌剤・商品名	パクリタキセル
規格	30mg/5mL 100mg/16.7mL
一般名	パクリタキセル
一日投与量(規定)	80mg/m ²
患者情報から算出した一日投与量	120.09 mg
実際の投与量	120 mg
	79.9 mg/m ²
投与日	
1クール期間	
予定クール数	
検査スケジュール	原則的に投与日に化学療法施行前セット 検査データに応じて随時検査実施

適応基準	胃癌
推奨経口剤	○このレジメンは軽度催吐性リスク群です。推奨される経口制吐剤はありません。
禁忌	1.重篤な骨髄抑制のある患者 2.感染症を合併している患者 3.本剤又はポリオキシエチレンヒマシ油含有製剤(例えばシクロスポリン注射液等)に対し過敏症の既往歴のある患者 4.妊婦又は妊娠している可能性のある女性 5.次の薬剤を投与中の患者:ジスルフィラム, シアナミド, カルモフル, プロカルバジン塩酸塩
中止基準	投与前の好中球数: 1000/mm ³ 未満、血小板数: 50,000/mm ³ 未満 骨髄機能が回復するまでは投与延期 (CTCAE ver4.0 における Grade3 の血液毒性に準拠)
副作用	<p>●パクリタキセル</p> <p>重大 1.ショック、アナフィラキシー様症状 2.骨髄抑制、感染症 3.末梢神経障害、麻痺、片麻痺、不全麻痺 4.間質性肺炎、肺線維症 5.急性呼吸窮迫症候群 6.心筋梗塞、うっ血性心不全、脳卒中、肺水腫、心伝導障害、肺塞栓、血栓性静脈炎 7.難聴、耳鳴 8.消化管壊死、消化管潰瘍、消化管穿孔、消化管出血 9.出血性大腸炎、偽膜性大腸炎、虚血性大腸炎 10.腸管閉塞、腸管麻痺 11.肝機能障害、黄疸 12.膵炎 13.急性腎不全 14.中毒性表皮壊死融解症、皮膚粘膜眼症候群 15.播種性血管内凝固症候群(DIC) 16.腫瘍崩壊症候群 17.白質脳症(可逆性後白質脳症候群を含む)</p> <p>その他 脱毛症、発疹、爪の障害、感覚減退、味覚異常、浮動性めまい、疲労、浮腫、発熱、悪心、嘔吐、下痢、便秘、食欲不振、口内炎、筋痛、関節痛、鼻咽頭炎、体重減少、体重増加、高血圧</p>
備考	

パクリタキセル単独療法 観察記録

所要時間:2時間

氏名: ID() 年齢: (才)

施行日	クール	回目	施行前内服薬()	入外()
医師	指示医師: パクリタキセル(mg) 一般名(パクリタキセル)		抗癌剤用量 計画書設定量 計画書設定量より減量 計画書設定量より増量 減量・増量理由	抗がん剤以外の薬剤の変更・追加
	<input type="checkbox"/> 投与決定 <input type="checkbox"/> 未決定 <input type="checkbox"/> 延期・中止			投与開始時間 調剤 実施
投与指示	本体	側管		
	生食250mL		2時間かけて点滴【125mL/hr】	
	生食20mL+ファモチジン1A		静注	
	ポララミン1A		静注	
	生食100mL +テガロン 2 A +ラモセトロン(0.3mg) 1A		30分かけて点滴【200mL/hr】	
5%ブドウ糖250mL +パクリタキセル		60分かけて点滴【270mL/hr】 ※フィルター付き点滴ラインを使用		
本体終了後抜去				